

## 平成22年度事業報告書

(概要)

例年5月に東西日本地区大会として東西2地区で同時期に開催してきた日本少年少女オープンヨット大会は、今年からは一本化して、全国のクラブからの参加のもとで全国大会として新しい企画で神奈川県江ノ島ヨットハーバーに於いて開催しました。

又、6月には新しい大会として、自然環境保護の社会的な動きの中で、「ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010(ラムサール条約記念全国大会)」を鳥取県、島根県の県民運動となっている中海・宍道湖一斉清掃活動の時期に合わせて開催しました。

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会の参加料と一緒に集めていた選手登録料を今年度から廃止して、年度初めまでに各登録クラブから所属するジュニアセーラーの名簿を提出して頂いて、選手の人数に応じた登録クラブの負担金を納入して頂くこととしましたが、その趣旨の浸透が不十分で、誤解をされているクラブもあるようなので、今後の情宣活動と意見交換によりご理解を頂くようにして行きます。

平成23年2月19日、平成22年度第二回通常総会終了後、各登録クラブの代表者(出席24名)と連盟理事、監事、委員との「意見交換会」と懇親会を開催し、遠隔地の代表者には宿泊願い、翌日の指導者講習会に出席頂く企画を実施しました。貴重なご意見をいろいろと頂きましたが十分な時間がなく、その後の懇親会でも引き続き意見を交換しました。今後はこのような機会を継続するとともに、頂いたご意見を今後の連盟の活動に反映させて行くべく理事会で検討を進めてまいります。

平成23年2月22日、ニュージーランド南島のクライストチャーチ市を震源とする大地震が発生し、同市を中心に大きな被害が出ており、多くの日本人の語学研修生が亡くなりましたが、昨年若洲で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010に参加したBrittany Womallさんご一家の自宅が倒壊する等ヨット仲間やヨットハーバーが被害に遭いました。偶々2月26日に佐藤精知夫副会長の叙勲お祝会が開催され、佐藤副会長から出席者に呼び掛けて救援募金を行い、引き続き当連盟登録ジュニアヨットクラブにも救援募金をお願いをして、集まった救援金を、3月25日からニュージーランド海外研修選手の引率者、小野澤秀典理事に託して、Jan Dawson ニュージーランドヨット協会会長に石原伸晃会長のお見舞い状とともにお渡ししました。

平成23年3月11日三陸沖を震源地とする東日本大地震が発生し、それによる大津波によって岩手、宮城、福島、茨城、千葉各県の広い地域が甚大な被害に見舞われました。宮古ジュニアヨットクラブ、松島・名取ジュニアヨットクラブ、いわきジュニアヨットクラブでは、ハーバー、救助艇、ディンギー艇等壊滅状態となりましたが、人命には被害がなかったのがせめてもの幸せでした。

(財)日本セーリング連盟による義捐金募集活動に協力し、各登録クラブにも義捐金の呼びかけをしました。今後は新年度に入り、被災3クラブに対して、艇や艀装品、救助艇等の有償・無償の提供して頂けないかを各クラブに呼び掛けて、生活基盤が落ち着いたら再びヨット活動をする元気を持って貰おうという復興支援活動を継続してゆきます。

尚、平成23年3月25日開催の平成23年3月度理事会において、東日本大震災の被災者等への思い、余震の断続、福島第1原子力発電所放射能漏れ事故の影響、生活物資等の供給不足からの生活不安・学校や課外活動の制約などいろいろの状況判断から、平成23年5月3日～5日、江の島で開催予定の第31回日本少年少女オープンヨット大会の開催中止を決定し、正会員への連絡、諸官庁、(財)日本セーリング連盟等への報告を行いました。

本年度の競技会事業は下記の通りです。

第30回日本少年少女オープンヨット大会(全国大会)

平成22年5月2日(日)～4日(火・祝)神奈川県江ノ島ヨットハーバー

ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会(中海・宍道湖弘サール条約記念全国大会)

平成22年6月12日(土)～13日(日)鳥取県米子市湊山公園

国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会2010

平成22年7月30日(金)～8月1日(日)東京都若洲ヨット訓練所

第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2010)

平成22年9月20日(月・祝)東京都若洲ヨット訓練所

地域普及大会としての「ミツ矢サイダーカップ」は、開催地に相応しい場所、候補地が選定出来なかったため開催を見送りました。

(部門別詳細)

#### 1. 総務関係部門

(1) 会員開発とクラブ加盟促進(総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会)

(イ) 新たに4クラブが登録され、1クラブが退会となり、4クラブが休会して、現在活動中の登録クラブの代表者である正会員は59名です。

(活動クラブ 59クラブ、休会 20クラブ)(平成23年3月31日現在)

(新規登録クラブ) かながわジュニアヨット倶楽部ワンダラーズ、クローバーリーフセーリングクラブ、佐島セーリングジュニア、香川県ジュニアセーリングクラブ

(退会クラブ) 光セーリングクラブジュニア

(休会クラブ) 函館ジュニアヨットスクール、佐島ジュニアヨットクラブ、和歌山ジュニアヨットクラブ、琵琶湖ジュニアヨットクラブ、兵庫県セーリング連盟ジュニアクラブ、広島ジュニアセーリングクラブ、安来ジュニアヨットクラブ、玄海セーリングクラブジュニア

クラブの代表者以外の正会員は、理事11名、監事2名、その他の方2名の15名となり、上記加盟クラブの代表者の正会員と合わせて総計74名です。

(ロ) 賛助会員については、「株式会社ライフ・サイエンス研究所」、「アサヒ飲料株式会社」の2社から引き続きご支援を頂いていますが、その後は新しい賛助会員はお願い出来ておりません。

(2) 地方水域担当理事の活動（総務委員会/普及渉外委員会）

地方水域担当理事（総括と東：小松勇一理事、東：中川二郎理事、西：内藤武夫理事、小野澤秀典理事）は、引き続き定例理事会、総会への出席や全国大会、オープン大会等の競技運営への参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門（指導育成委員会）

(1) 本年度は、新たな公認指導員が2名認定されましたが、準指導員の申請は無く、更新した公認指導員は7名、準指導員の更新は無く、平成23年3月31日現在の公認指導員は117名が登録されており、準指導員の登録はありません。

現在、37クラブには公認指導員がいない状況ですので、各クラブにおいては積極的に公認指導員の登録申請をして願います。

(2) 指導者研修会を、平成22年度第二回通常総会（平成23年2月19日）の翌日平成23年2月20日に岩手県宮古ジュニアヨットクラブ代表者の橋本久夫氏を講師に開催しました。

3. 普及と広報活動部門

(1) 普及・振興活動（普及渉外委員会）

本年度も、地域普及大会の開催を検討しましたが、相応しい場所と中心となるクラブ等の選定が出来なかったため開催を見送りました。

(2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会/普及渉外委員会）

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010」については、東京都ヨット連盟との共同主催することで、東京都にお願いした結果、財団法人東京都スポーツ文化事業団の特別協賛を頂いて、東京都若洲ヨット訓練所において開催出来ました。

(3) B&G 財団との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

B&G 財団に対し、その傘下海洋クラブの当連盟主催各競技会、大会への参加呼びかけをして頂くよう継続的に働きかけながら協力関係強化に努力しました。

(4) クラス別協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）

当連盟登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇種であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等のクラス別協会とも連絡を強化して、各艇種の普及と競技会への参加増を努力しています。

- (5) 日本OP協会との協調活動（普及渉外委員会/競技委員会）  
当連盟登録各クラブで最も多くの艇数を使用していて、当連盟主催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会との連携を強化すべく努力をしています。
- (6) 機関誌等の発行他（広報委員会）  
平成22年10月にユースセーリング81号を発行、平成23年3月に82号を発行予定でしたが、広報委員長が多忙なことから、平成23年3月11日発生の東日本大震災の影響もあり編集、発行が遅れてしまい、年度内発行が出来ませんでした。新年度に入り可及的速やかな発行に努力します。  
内容的には、各地のクラブ訪問や巻頭言に海外チームの監督をお願いする等、新しい企画で記事を刷新して充実を図っています。  
連盟ホームページも少しずつ充実し、競技会のレース公示、帆走指示書等の情報提供、競技会のレポート、写真などを出来るだけ迅速にアップ出来るよう努力をしています。
- (7) ジャパンボートショー2010 in 横浜出展（普及渉外委員会）  
平成23年3月3日～6日、横浜市のパシフィコ横浜で開催のボートショーに出展予定でしたが、今まで免除されていた出展費用を今回から徴収されることとプールを使用してのOP級ディンギー試乗会が出来ないことに加え、既に過去の出展でほぼ目的とするところは達成したとの認識で、今回から出展を取り止めることとしました。
- (8) 競技会の開催（競技委員会）
- (イ) 第30回日本少年少女オープンヨット大会を、平成22年5月2日(日)～4日(火・祝)、神奈川県江ノ島ヨットハーバーを会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、市制70周年の藤沢市の記念大会として市長杯を頂き、(財)日本セーリング連盟、神奈川県セーリング連盟その他の後援、協力を頂いて、ジュニアヨット発祥の地で、(社)江ノ島ヨットクラブとの共同主催で開催しました。  
参加クラブ 17クラブ 参加選手107名（指導者・保護者・役員120名）
- (ロ) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010（中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会）を、平成22年6月12日(土)～13日(日)、鳥取県米子市湊山公園と中海を会場に、環境大臣賞、文部科学大臣賞、鳥取県知事賞、島根県知事賞、米子市長賞を頂き、国土交通省、(財)日本セーリング連盟等の後援、協力を頂いて、新しい大会として、鳥取県ジュニアヨット協会、隠岐ジュニアヨットクラブ、安来ジュニアヨットクラブ、中海賢明利用協議会との共同主催で開催しました。  
参加クラブ 6クラブ 参加選手25名（指導者・保護者・役員80名）
- (ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010を、平成22年7月30日(金)

～8月1日（日）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、4カ国の外国チームを招聘しましたが、直前にシンガポールがキャンセルとなりました。

本年度は、新しい試みで、国内チーム対抗レースの優勝チームの選手を連盟が費用を一部負担して海外研修に派遣する特別賞を企画しました。

文部科学省、国土交通省、東京都、江東区、（財）日本セーリング連盟等多数の後援のもとに、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯、特別協賛アビームカップを頂いて、東京都ヨット連盟との共同主催で開催しました。

参加クラブ 国内 20クラブ 参加選手95名、外国 3チーム 15名  
合計23チーム 参加選手 110名（指導者・保護者・役員 190名）

（二）第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2010）を、平成22年9月20日（月・祝）、東京都若洲ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟との共同主催で、20回目の記念大会として例年よりも多勢の参加を得て開催しました。

参加クラブ 17クラブ 参加選手（個人参加を含む）104名  
（指導者・保護者・役員 150名）

（9）諸外国との親善交流（普及渉外委員会/競技委員会）

（イ）平成22年7月30日（金）～8月1日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010に、ニュージーランド、オーストラリア、韓国の3カ国から、合計15名の選手と7名の指導者を招待し、選手、指導者、保護者、運営役員他招待者も含め国際交流会を開催しました。

（ロ）平成22年9月20日（月・祝）、東京都若洲ヨット訓練所で第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ2010）に外国選手も参加し交流しましたが、外国選手の参加が少なくなっているため、多くの外国選手に参加して貰うべく、例年の9月第1日曜日開催を、夏休み帰国から戻る下旬に遅らせて、在日大使館やアメリカンスクール等に呼びかけましたが、日本の祝日は外国学校では休校ではないことから、来年度以降は日曜日にする事にしました。

（ハ）平成22年11月13日（金）～14日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の、東京都・ソウル特別市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。毎年ソウル特別市と東京都とで交互に開催し、今回は25回目の記念大会でした。

（二）国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010のクラブ対抗レース優勝クラブ特別賞で、優勝クラブの江の島ヨットクラブジュニアの3名の選手が、小野澤秀典理事の引率のもと、ニュージーランド北島オークランド市において、3月25日から4月1日までの期間、現地3家族にそれぞれホームステイをして、海外研修を実施し、国際交流の成果を上げました。

(10) ジュニアヨットクラブの安全対策事業（指導育成委員会/普及渉外委員会）

(イ) 平成22年5月2日（日）～4日（火・祝）、神奈川県江の島ヨットハーバーを会場に開催の第30回日本少年少女オープンヨット大会（全国大会）において、2日の開会式後、参加選手、指導者、保護者に対し、当連盟安井常務理事による安全講習会を開催しました。

(ロ) 平成22年7月30日（金）～8月1日（日）、東京都若洲ヨット訓練所で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010において、30日の開会式後、国際交流会の前に、大塚製薬(株)よりのポカリスウェットの提供を頂いて選手、指導者、保護者に当連盟安井常務理事が安全講習会を実施しました。

(ハ) 平成23年2月19日開催の通常総会の翌日に指導者講習会を実施し、その機会に、併せて安全講習会も実施しました。

以上